

総務部長	五十嵐 久英君	市民部長	渡辺 成剛君
産業部長	見辺 太君	総務課長	渡辺 忍君
企画定住課長	渡辺 孝志君	財政課長	山口 和美君
市民課長	川合 三喜八君	環境生活課長	高野 一夫君
福祉事務所長	嶋田 猛君	健康増進課長	池田 隆君
商工観光課長	大嶋 利幸君	農林水産課長	猪又 悦朗君
建設課長	五十嵐 博文君	消防長	小林 正広君
教育長	井川 賢一君	教育次長	磯野 茂君
教育委員会こども課長	磯野 豊君	教育委員会こども教育課長	富永 浩文君
教育委員会文化振興課長 市民会館長兼務	伊藤 章一郎君		

〈事務局出席職員〉

局	長	松木 靖君	次	長	松村 伸一君
係	長	上野 一樹君			

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。  
 これより本日の会議を開きます。  
 欠席通告議員は、ありません。  
 定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。  
 会議録署名議員には、2番、東野恭行議員、19番、五十嵐健一郎員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。  
 11日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。〔17番 渡辺重雄君登壇〕

○17番（渡辺重雄君）

おはようございます。清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

このところの国におけるコロナ禍による各種の対応を見ながら、糸魚川市における影響と対策、さらにその先のコロナ禍後の社会の変化にどのように対応すべきか。今まで経験したことの無い行政運営が必要となっていると感じております。

そこで今回は、30年先も持続可能なまちづくりにつなげるためにも、コロナ禍後の厳しい社会情勢を踏まえ、糸魚川市の産業振興、人口問題、行財政の各分野における変化とその対応について伺います。

1番目は、地域資源を活用した産業の振興についてであります。

コロナ禍による不景気は、通常の不景気とは違い、長期的に影響が出るものと考えられます。特に、考え方の変化にも及んでおり、回復したとしても既存の考え方だけでは衰退も危惧されます。今後、豊富な資源の活用などに異業種や域外業者の参入も促し、改革的発想による地域資源を生かした産業の振興に期待をして伺います。

(1) 地域資源の現状と活用方法についてであります。

数ある地域資源をどのように発掘、整理し、付加価値をつけて情報発信したり、流通させて地域の強みに生かしているか、伺います。

(2) 異業種や域外業者等の参入についてであります。

活用することが難しい地域資源もあり、異業種や域外業者などからの参入も促し、活用の幅を広げるべきと考えるが、いかがか伺います。

(3) 市民ぐるみの観光振興についてであります。

観光は地域資源がベースであり、DMOなどで市民が大きく関わることにより、観光振興につながると考えており、各種の取組について伺います。

2番目は、新しい価値観に対応した人口対策についてであります。

今回の新型コロナウイルス感染症対応は、住んでいるところによって様々であり、人生で本当に必要なものは健康や家族と穏やかに過ごす日常生活だという気付きもありました。都市部では安心・安全から地方に対する見方も変わってきており、移住定住の議論にも波及していることから、新たな発想による人口対策と戦略が必要と考え伺います。

(1) 人口ビジョン策定後の糸魚川市の現況についてであります。

平成27年に人口ビジョンが策定されて5年、人口ビジョンを基にした総合戦略の成果をどのように分析し、今後に向けて取り組んでいるか伺います。

(2) 各種就業支援とキャリア教育、コンソーシアムについてであります。

人口減少対策として、各種の就業支援やキャリア教育、そしてコンソーシアムの構築にも期待しており、取組の現状と今後について伺います。

(3) 移住定住の促進についてであります。

コロナ禍により、住まいに対する意識の変化も見られる中で、どのような踏み込んだ施策が効果的と考えるか、新たな対応を伺います。

3番目は、コロナ禍後における行財政についてであります。

今回のコロナ禍は、今だけ我慢すればという、現状のままじっと待つという選択から、一日も早く現実を受け入れ、変化に対応した人や組織が新しい時代に適応して生き残れると言われております。不透明で不確実な時代を迎えるコロナ禍後、新しい生活様式やデジタル化などを踏まえた行政の在り方と見通しなどを伺います。

(1) コロナ禍後の行政の在り方と進め方についてであります。

コロナ禍における新しい生活様式や急速なデジタル化の動きの中で、アフターコロナを見据えた行政の在り方と進め方について伺います。

(2) 自助・共助・公助と行政改革についてであります。

コロナ禍後は、市民と行政が役割を分担しながら公益を増進していく新たな仕組みが必要と考えており、行政の基本的な考えを伺います。

(3) 長期財政見通しに見る課題についてであります。

令和7年度までの見通しの中で、行政需要の増大、一般財源の減少、合併特例の終了などの課題が挙げられているが、これらに対応する戦略を伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、地域資源を活用する事業者と関係機関が連携することで本市の産業振興に取り組んでいると考えております。

2点目につきましては、異業種や域外業者の参入により、地域資源活用の幅を広げることができるよう検討してまいります。

3点目につきましては、DMOは観光地域づくり法人として、地域を含めた様々な関係者を巻き込み、地域の稼ぐ力を引き出すことが重要であり、各地域や団体で取り組まれている活動を観光に結びつけていく必要があると考えております。

2番目の1点目につきましては、重要業績評価指標KPIは一定の成果を上げておりますが、人口ビジョンに定める人口目標値は、達成していない状況であります。

第2期総合戦略においては、人口減少対策を重点課題として、本市の強みを生かし、愛着と誇りを育てるまちに向けた取組を進めております。

2点目につきましては、子ども一貫教育におけるキャリア教育を進める上で、企業、地域の関わりはなくてはならないものであり、関係団体と連携して進めてまいります。

3番目につきましては、地方移住への機運は高まっておりますが、現時点では移住先として東京

近郊を選ぶ傾向にあります。今後も地域への移住やリモートワーク推進の動きは続くものと考えており、暮らす、働くの両面から支援を継続してまいります。

3番目の1点目につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、考え方や働き方が大きく変化していることから、国の動向や市民生活、経済活動を注視し、アフターコロナを見据えた取組を進めることが重要であると捉えております。

2点目につきましては、市民、地域、行政が一体となって課題を解決していく協働の取組が重要だと考えております。

3点目につきましては、新型コロナウイルス感染症は、国や地方自治体に大きな影響を及ぼしていることから、今後の社会経済情勢などを注視する中で長期財政見直しも見直して、対応を検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。それでは、2回目の質問をさせていただきます。

まず、1番目の地域資源を活用した産業の振興についてであります。1点目から3点目まで関連がありますので、質問が前後するかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

まず、国の調査では、地域資源は地域の活性化の切り札ということで、ほとんどの市町村では農水産品、観光資源と回答しているそうですが、この4割以上の自治体が地域活性化が切り札となり得る地域資源はあるものの、十分に活用がされていないというふうにお答へしているそうですが、糸魚川市の現状は、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

おはようございます。

お答へいたします。

今ほどご質問のように地域活性化の切り札として、特に農林水産物等々が、やはり各自治体においても重要と言われてるところであります。現在、観光資源も含めましては、当市においては様々、これも含めた地域資源をジオパーク活動や地域づくりに十分活用いただいているのではないかとこのように考えております。

また、農林水産物につきましては、当然のことながらコシヒカリであったり、越の丸茄子であったり、ベニズワイガニであったり、そういった品物が、もう既にブランド化をされていて、活用されているということでもあります。

また一例として挙げさせていただければ、現在、森林資源の活用のための取組も始まっており、こちらにつきましても今後の活用、進展に期待をしているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今年ですか、企業連携や新産業創出ということで糸魚川産業創造プラットフォーム、これが設立されたわけですけども、この組織は、当面は研究会というような動きをなさるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おはようございます。

産業創造プラットフォームでは、現在シェアリングエコノミーですとか、森林資源の活用、美山公園の活用、生産性の向上等、様々な事業に取り組んでおるところであります。今年度から本格的なスタートを切ったところではありますが、現在、現時点では調査研究ですとか、実験が主な動きとなっているところでもあります。ただ、市内企業をはじめまして様々な方が関心を示していただいておりますので、今後、次の段階に進めるよう市としても引き続き支援をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この組織、非常に期待しているんですけども、この地域資源の活用とか、地域資源につながる新事業、それから新商品の開発につながる気配というのはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今の産業創造プラットフォームの中で、例えば森林資源の活用プロジェクトにつきましては、糸魚川スギの重ね張りの開発ですとか、糸魚川産材のモデル住宅、商品開発の取組をしておりますし、また、美山プロジェクトでは、文化、観光、飲食、映像、子育て等、異業種連携によりまして、新たな企画等の事業展開を進めておりますので、新事業や新商品の開発につながることを大いに期待しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今おっしゃるような中小企業にとりましては、この地域資源、これ自社の経営資源として取り入れることによって活性化の一手ではないかなというふうに私も思っておりますので、期待をしてい

るところでございます。

それからもう一つ、糸魚川なりわいネットワーク、こちらは9年の歴史があるわけですけども、実績も上げておられるんですけども、このなりわいの原点であります他業種連携という強み、これは発揮されておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

なりわいネットワークにつきましては、現在39社が参画しておりまして、農林水産業からサービス業まで、幅広い事業者が参画しているところが強みであると考えております。会員連携によりまして、新商品の開発ですとか情報発信、また、このコロナ禍の中でインターネット販売等も強化を行ってるところでありまして、今後ともこれらの取組について支援をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

このネットワークでは、地域ブランドの創出による会員の稼ぐ力の向上というふうに言っておられるんですが、具体的にそういう事例みたいなものがありましたら、ご紹介いただきたいと思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

なりわいネットワークの設立の目的の一つであります地域ブランドの創出につきましては、他の商品とか地域との差別化が図られるものであるというふうに考えておりまして、現在、その主な取組としましては、東京の板橋区の大山商店街でのアンテナショップですとか、品川区の武蔵小山商店街等でフェアを行っておりますし、また、個店でも白馬のアウトドアショップでのレストランに食材を提供しておったり、あとまた、新潟の三越伊勢丹に出品したりということで、それぞれの企業の事業の拡大も見られておりますので、引き続きこれらを支援するとともにこれらのお店につきましては、ファンにつきましても徐々に増えてきているものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今ご紹介いただいたように糸魚川市は地域資源も数多いわけでありまして、一番気がかりなのは、田畑の耕作放棄地ですね。こちらの実態は、どうであるか。また、今後の見通しも気がかりなところなんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

平成27年の農林業センサスにおける耕作放棄地面積は441ヘクタール、平成22年と比較して約6%増加しているということでございます。今年行われたセンサスの数字は、まだ発表はされておりませんが、増加しているのではないかとということで現在推測をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

最近、圃場整備田でも耕作放棄といいますか、あるんですね。この対応策としては、建設業をメインにしている業者の方々の農業への参入等もあって、かなりの部分助かっているところもあるんですけども、放棄地になるということは、もう余力がないということですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

余力というところのご質問でありますけども、法人、個人個人の経営に係ることでもありますので、私ども市としては、確たる答えは持っておりません。

しかしながら、言い換えれば経営規模の拡大ということになった場合、その法人も新たに人員配置、設備投資、耕作条件、作業効率などなど様々な条件を考慮して取り組んでいくんだらうというふうに考えておりますので、そういったところを推測しますとなかなか簡単に今できる、できないというところは判断できないのではないかとこのように判断しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今年の6月、策定された糸魚川市指定棚田地域振興活動計画、農産物の高付加価値などによる農業所得の向上で、耕作放棄地の発生防止を図りたいとしているんですけども、これ目算ありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

ただいまの計画でございますけども、棚田という視点で耕作放棄地の発生防止を図ることに目標とした取組として、今ほどの生産性の向上や農産物の高付加価値などの取組ということで掲載させていただいております。

こちらの内容につきましては、現在、糸魚川市の抱える農業への課題、対応という位置づけでお

ります。市としましては、今後も引き続き農業振興のために関係機関と連携をして、こういった課題に取り組んでいくということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

私が思うんですけども、この再生不可能な耕作放棄地になっていく前に手を打つ仕組みを考えないと、これは大変だなというふうに思うんですが、まだまだ再生可能な耕作放棄地もありますので、地域外の方たちの応援をもらっても、地域資源として生かす工夫といたしますか、余地はあるんじゃないかなというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

市内の圃場整備田のうち、昨年1年間に休耕届が出されたのは、登記簿面積であります、5.4ヘクタールとなっております。休耕して1年くらいであれば、再生可能ではないかと考えております。現在は、全国農地ナビなどという農地情報をインターネット上で公表しておりますが、今ほどのご提言にもありましたとおり、もう一歩少し突っ込んで、地域外からの参入促進という視点でJAなどとも関係機関と情報共有しながら取組について調査研究をしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

いろんな制約があるかと思うんですが、これちょっと紹介させていただきたいんですけども、昨年、現地研修をさせていただいた兵庫県の養父市、要件緩和で設立された11社の農業法人が市外から参入して、4年目で営農面積が46.6ヘクタールと。そのうち耕作放棄地が21ヘクタール、参入企業の中には、クボタ、ヤンマー、オリックスといった企業もありますし、また、作物は酒米などの稲作、そして、ニンニクなどの野菜、それからブルーベリーなどの果樹などもありまして、6次産業化によって付加価値を上げて、市内から雇用が80名というふうなことです。いろんな面で地域貢献に結びついてるというふうなことで、計画では年間8億4,000万円の農業生産額を目標にしてるということでありました。

こうした地域外からの参入、いろんな意味で相乗効果も含めて、刺激にもなるんじゃないかなと思うんですが、もう一度いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）



地域外の企業が参入して、新たな知恵や工夫、異業種ならではの発想と技術力などが、それぞれ生かされた一つの成果だというふうに考えております。

特に農業への地域外参入ということでございます。こちらにつきましては、私どもとしましては、今後、県、JAと連携しながら、まずその推進方法も含めて検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

非常にすぐというわけにいかない、農業特区とかいろんな制約を乗り越えて、既に成果を上げているところもありますので、ぜひ進めていただきたいというふうに思います。

それから、観光なんですけども、観光に対する地域社会の理解という点に関しましては、今まで具体的にお願ひしたり、調査をしたということとはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

地域社会との関わりという観点で、お答えになるかどうか分かりませんが、観光という面に関しましては、総合計画の市民アンケートの中で調査を行っておりまして、平成30年の調査の今後の重要度というところを見ますと、重要と、ある程度重要と答えた人が、ジオパークを活用した観光資源の連携と魅力づくりという項目では67%の方が重要であるということで答えておられまして、非常に高い割合になってるというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

コロナ禍によって、この観光が非常に厳しい局面にあるわけでありまして、今こそ地域ぐるみ、市民ぐるみの観光につなげるときだというふうに思うわけでありまして。既にこのDMO、具体的な取組をされてるかと思うんですが、人材も貴重な地域資源でございますので、このDMOの取組の中で、地域との関わりといった点については、どのような形で進めておられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

地域との関わりにつきましては、例えばジオサイトもある地区の皆さんからは、周辺の環境整備ですとか、案内役として活動いただいておりますし、また、農家の皆さんからは、農家民泊ですとか農村体験等にご協力をいただいております。

しかし、DMOの本来の取組と申しますか実効性のあるものにするためには、地域の関係者が主

体的にこれらの活動に参画できる体制をつくる必要があると思っておりますし、これらが今後の課題であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

DMOにつきましては、今までの観光のスタイルとはちょっと違って、前面に出てるのが地域の稼ぐ力というふうなこと。それから、地域への誇りと愛着を醸成する観光地経営というふうなことが前面に、最大の目的にされておるんですけども、この稼ぐ力、これ二、三年たつんですけども具体的に覚えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

DMO法人であります糸魚川市観光協会では、引き続き体験メニューを中心とした旅行商品の開発を進めているところであります。地域おこし企業人として日本旅行からも人材を派遣いただいておりますが、徐々にではあります、旅行商品として稼ぐ方向にシフトしてきているのかなというふうに考えておりますが、まだ引き続き、これからも取り組んでいく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

DMOに期待をしておりますので、よろしくお願いをしたいと思えます。

それから、2番目の新しい価値観に対応した人口対策でございますが、こちらも1点目から3点目へまたい質問になろうかと思うんですが、よろしくお願いをしたいと思えます。

まず、政府は先週、追加経済対策として東京から地方へ移住する場合、100万円分のポイントを付与するといった施策を閣議決定しておりますけども、今までの地方創生を含め、一連の国の人口対策に対してどのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

国のほうでもまち・ひと・しごと創生法という法律を立てて、人口減少対策に取り組んでいるというふうに思っております。その中で、東京一極集中の是正、それと人口減少に歯止めをかける。それから地方に仕事をつくり、暮らしやすい、住み続けられる地域をつくる。そういった理念で取り組んできておりますので、糸魚川市も、その理念に乗った取組は進めてきているというふうに思っ

ております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今年はコロナ禍の中で、都市部の皆さんが安心・安全ということから郊外へ、それから地方に関心を持つ方が増えているというふうなことであります。

ちょっと紹介させていただき、質問させていただきたいんですけども、ふるさと納税総合サイト運営会社のトラストバンク、こちらが6月に東京都内に住む20代以上の男女に実施した地方暮らしに関するアンケートの結果を発表しておりますけども、その中で都内に住む人の56%が地方暮らしに関心ありと回答したそうで、この新型コロナウイルスの影響は46%と半数近くにも上っておりますが、このことからこの方たちをどのように誘導できるかというようなことになるんですけども、このような情報から、どんな感想をお持ちになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、新型コロナウイルスの状況で、社会の情勢が非常に変わってきました。かつては東京一極集中、直下型の災害が起きた場合はどうするのかといったところがクローズアップされておりましたが、今回のコロナ禍の中におきまして、やはり3密を避けるといった思いで、やっぱり東京から離れていくという現象は、出てきとると思います。

ただ、今、今年に入ってから4月、5月、6月、7月の総務省が発表しております人口の、東京からの移動を見ますと、東京都からは出ておりますけども、やはり広がり、その近郊のところに行ってるのかなというところになります。これも一つのチャンスと捉えまして、もう一歩先のほうへ呼び込むようなリモートワークですとか働き方、それからライフスタイル、そういったものを見つめながら取り組む必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

また、この調査によりますと、人気の地方暮らしのスタイル、これについては都市と地方を往来する2地域居住が42.4%、移住・定住は31.1%ということで、取りあえずは都会と地方の2地域で両方のよさを生かしたいという方が多いというふうに感ずるわけですけども、これらに対応するとすれば、どのような対応が考えられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに移住といってもハードルは非常に高いと思います。その人のライフスタイルを決めるわけですので、まず慎重になるというところが、今までやってきた経験から言えるのではないかと考えております。そういった経験から、まず今議員がおっしゃった2地域居住、移住までは行かないけれども、ちょっと体験をしてみる、移住体験。それがもしよければ、もう一度リピーターでもっと中期的に、もっとよければ長期的に、そういった流れをつくりながら、最終的にこの地がやっぱり選んでいただけるという判断をしていただくまでにしっかり地域を見てもらう。それから自分の行いたいものは何なのか、その目的にかなうところが糸魚川市にあるのか、そういった視点を見極める中で進めていく必要があるなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この2地域居住ということでは、空き家の活用もありますけども、クラインガルテン、これを設置するという事も考えられるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

クラインガルテンも一つのライフスタイルの変化、楽しみ方というところでは有効かと思えます。それも一つの選択肢として、それを選ばれるという方であれば、十分可能性はあると思えますし、まだそのほかのアクティビティを求める方もいらっしゃると思えますので、一つの選択肢として考えておかなきゃいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

クラインガルテンと言えば、近くでは妙高市ですね。現在20区画あって、契約期間は1年ごとなんですけども、最長5年間延長できるというふうなことでありますが、お聞きしますと現在空き区画はないんだそうですね。希望される方は、待機者登録をいただいているということなんですけど、市内にも適地がたくさんございますので、この自然を生かすという観点からも、有効かなと思うんですが、もう一度お聞きしたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

糸魚川市の、特に農業分野のほうにも入っていくと思うんですが、やはり中山間地域というところで標高差があって、普通の平たい平野とは違うなというところがあります。そういった地域特性

を生かしながら、売りに出ていくというのは大事だと思います。妙高市と違うのは、海があるということですね。そういった特性も入れる。それとあとこちらのやっぱり受入れ側のほうの体制、そういったものを勘案しながら取組を進める必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

空き家対策というふうな観点からすればいろんな考え方もあるかと思うんですが、このお試し移住というふうな制度をつくって、地域に慣れていただきながら移住に結びつけるという方法もあるわけで、中でも南伊豆町、短期は1泊から30泊、中期は1カ月から1年、長期は1年から5年ということで、この辺の取組というのはやっぱり必要じゃないかなというふうに今思うんですが、お考えはございませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

先ほどの答弁の繰り返しになってしまうかもしれませんが、確かに今、議員が言われた事例、確かにお試し移住で短期的な取組というのは非常に大事だと思いますし、さらにその一歩というのも大事だと思います。

糸魚川市のほうでも、相談受けられた方には、1泊2日程度の体験をしていただくですとか、あと相談に来られた方のライフスタイルに応じたセミオーダー型の移住体験と。ちょっと長いスパンで計画もしておりますので、そういったお試しの体験というのは、非常に大事だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

さらに先ほどご紹介させていただきましたアンケートの中でありますけども、移住した場合の働き方について、現在と同じ会社に行くというのが22.7%、独立して働きたいが20.7%、地方の会社で働きたいが13.4%ということですね。

このことから、既にテレワークなどで地方に移住しても、今の仕事が続けられるという方たちはかなりいるというふうなことが分かってきました。この辺の働き方に関する意識については、どのように受け止められますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今コロナ禍におきまして、テレワークというのが非常にクローズアップされているところであると

思います。行政といたしましてもいろいろテレワークの関係を踏み込んで調査したりとか、いろんな人の意見を聞いたり、実際の企業の方の意見を聞いたりしております。その中で、テレワーク、イコール在宅勤務というふうに捉われないで、離れたところでの仕事というのは非常に今やりやすくなってきているという意見もお聞きしているところでもあります。

ただ、そういった方、いろいろ単身でおられる方もいれば、家族をお持ちの方もいらっしゃいます。そういったやっぱり形態が違うと思うんですね。特に家族をお持ちの方については、子供さんの学校のことだとか、そういったところも要素に入れなければいけないと思いますので、今後そういった状況を注視しながら取組は進めていかなければいけないというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、この地方の暮らしに関心がある人のうち、ふるさと納税の経験者というのは約4割いるそうです。さらに寄附した自治体で地方暮らしをしたいと思う人は、約6割に上っているといえます。ふるさと納税していただいた方をターゲットにするという方法もあるのかなと思うんですが、これはなかなかダイレクトにやると難しい問題が出てくるかもしれませんが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かにふるさと納税のほうも、今返礼品のところではいろんな自治体の皆様、クローズアップされております。

糸魚川市のほうでもふるさと納税、やっぱり一過性ではなくて、毎年決まって糸魚川市に寄附を頂いている方いらっしゃいます。そういった中では、ダイレクトメールを使って情報を流したりとかしておりますので、何とか糸魚川市のファンになってくれる方につきましては、この縁が切れないように引き続き情報を発信する中で何とか糸魚川市に足を運んでいただけると。一歩進んだそういった取組を進めていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

そこで、私も考えてみておるんですが、ふるさと納税なんですけども、今物のお礼というのが非常に多いと思うんですが、体験できるふるさと納税といいますか、ワーケーションで地方暮らしを疑似体験していただくと。そして、移住につなげる工夫というのは、やっぱりしてみてもいいんじゃないかなと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

ふるさと納税の一つの返礼品のメニューとしては、今のところありませんけども、今後そういった取組も事業者の皆さんとも相談しながら検討はしていかなきゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、人口問題で大事なキャリア教育ですけども、キャリアフェスティバルいといがわ2020につきましては、先日の山本議員の一般質問で各種の成果を確認させていただいたわけですが、私も午後から見学させていただきましたけども、問題は、これからこれを生かすため、この後どのような展開を考えているかというふうなことになると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今後の展開というところなんですけれども、キャリアフェスティバル自体は、今後検証して、来年度さらにというところだというふうに思っています。

キャリアフェスティバルに関わってくださった企業、43社ございます。以前からコンソーシアムというところも課題になっておりまして、高校のほうでも、キャリアフェスティバルは中学生なんですけれども、高校のほうでも徐々に探究的な学びが展開され始めております。そういった中で、各高校のほうでも今の学びの検証というものを企業を含めて今後、来週、海洋高校を皮切りに3校やられる予定になっておりますが、そういったところも踏まえて、3校に関わる関係者が一堂に会する対話の場を設けていきたいと。

また、キャリアフェスティバルにご協力いただいた企業からも、キャリア教育にご協力いただいておりますので、そういったところもお声がけをしながら、構築に向けて進んでいきたいというふうに思っております。

既に、今高校に関わっていただいた企業からは、来年はこうしていけばいいんじゃないかというような意欲的なお言葉も頂いております、意識の高まりというのは感じております。そういったところも踏まえて、進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

既に、この後をお考えのようでありますけども、私はフェスティバルだけの接触ではもったいないような、あれだけ盛況に行われたわけでありまして、この後、興味を持った企業の最新の情報をい

つでも入手できるようにしていただければ、つながりが継続するというふうなことにもなりますので、効果的かなと思うんですが、この辺はやっぱりそういう対応というのは、できるような雰囲気でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

企業との連携といいますか、情報交換といいますか、コンソーシアムを構築しなくてもやはりやっていたかなければならないというふうに思っておりまして、いかにそういった声を拾うかというところが課題になってくるんですが、コンソーシアムの構築の有無にかかわらず、そういったところはやっていたかなければいけないというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長さんからコンソーシアムのことについても触れられておるんですが、やはり高校生の魅力づくりということで、昨年、学校、企業、地域、保護者などでコンソーシアム共同事業体を組織して、地域人材を育成したいとおったんですが、期待していたんですけども、中身はいろいろやられておるんでしょうけども、ちょっと私どもには形が見えていないので、ちょっとお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今現在、コンソーシアムというものは、構築はできておりません。

ただ、先ほど申しましたとおり、今高校で探究的な学びがされ始めまして、関わってくださった方々と検証の場を設けることにしております。そういったところを踏まえて今後、コンソーシアム、いわゆる対話の場と申しますか、そういったところを進めていきたいなというふうに思います。議会のほうにも見えるように、市民の皆さんに見えるようにしっかり進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

文部科学省のほうでもコンソーシアムの重要性といいますか、コンソーシアムを形成して地域との関わりを強くしよう、したらどうだと、これから必要ですよというふうな資料も見させていただいておるんですが、糸魚川市としては、糸魚川市に特化したようなコンソーシアムをつくられるのか、文部科学省の奨励するような形にしようとしているのか、その辺の形はどうでしょうか。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先にコンソーシアムを構築して、そこから進めるという手法もあるというふうに思っておりますが、やはりそれが形骸化しないように、私が先ほど申し上げた、皆さんが、関わる方が全て自分ごととして捉えることが、組織継続の条件だというふうに思っておりますので、今、関わっていただいた皆さんが、そういった自分ごととして捉えていただいているという意識が広まりつつありますので、今そういったところを捉えて進めるというほうが、効果的なのではないかというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、海洋高校と能水商店とのキャリア教育、糸魚川版のデュアルシステムと言われるくらいまで進化しておるわけですが、実際には、この能水商店での実習というのは、週どれぐらい行われているのか、また現況、一昨年あたりは非常にいろいろな内容的なこともお聞きしたり、情報が来てたんですが、ここ一、二年ちょっと情報が途絶えてるかなというふうなことなんですが、実態をお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

海洋高校と能水商店の連携ですけれども、具体的には、授業としては食品科学コースの3年生が、月に2日から3日、1日単位になるんですけれども、能水商店で食品加工、あるいは品質管理などを学んでおります。そのほかに部活動としまして、週に3日、月、水、金というふうになっておりますが、課外で商品開発、あるいはそれを製造するということを学び、さらに月1回程度、市外のショッピングセンターなどで販売実習をいたしまして、自分たちが開発した商品に対する消費者の声をじかに聞いて、それをまた開発に生かしているというところを学んでおります。

やっていることは、海洋高校、能水商店が充実しまして、さらに特化をされてきておりますので、それをまた見える化ということが課題だというふうに思っておりますので、定期的に連携会議も市と学校と能水商店の会議もやっておりますので、そういったところをまたちょっと話をして、見える化を進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

差し支えのない範囲で情報提供、いわゆる実態をお知らせいただくということも非常に助かるし、

双方に助かるというふうに思います。生徒に自信を与えるというふうなことをはじめ、各種の相乗効果を生み出しておまして、非常にこの後も期待したいというところであります。

それから、この項目の中で最後に、人口対策の中で大事な雇用でありますけれども、企業誘致はどこも最近行政の政策課題から外れてるようなところでありますが、このところ日本の海外進出した企業が、外国から撤退するケースが非常に多くなってるというふうなことを言われとるわけですね。特に中国あたりでしょうかね。これからも増えると予測しているエコノミストが多いようなんですけれども、糸魚川市としましては、こういう動きについてはどのように捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市内に本社がある企業で、中国ですとかタイ等に工場の拠点を持ってる事業者がございますけれども、詳細について全てちょっと把握できてないのが現状であります。

ただ、県の調査によりますと県内からの海外進出企業数は、100社前後で推移している状況であります。元年度までは大きな増減はありませんが、このコロナ禍において東南アジアからの撤退等の動きもあると感じておりますので、引き続き、関係機関と連携して情報収集に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

日本を代表する大きな企業も、既に国内回帰の準備をしているというふうなことも言われております。糸魚川市としても労働力の確保という問題もございますけれども、この状況を注視して、条件を整備しておくという必要もあるんじゃないかなと思うんですが、いま一度お願いしたいと思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市内の企業におきましては、現時点では海外からの撤退というのは見られておりませんが、今後そういう状況も考えられます。そういう企業にお勤めの皆さんにつきましては、比較的何と申しますか語学が堪能であったり、いろんな能力を持ってる方が多くいらっしゃると思いますので、そういう方の獲得についてもできるように、企業の情報を収集しまして、引き続き必要な対策を取ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先ほどお話をさせていただきましたが、高校生を核とした地域人材育成事業、これと並行して今ほどの地元に着定できる環境整備という点で、雇用の問題等が必要になってくるわけですので、ぜひお願いをしたいというふうに思っております。

3番目のコロナ禍後における行財政について伺いたいと思います。

今回の新政権下では、コロナ禍による行政の在り方も注目されておるわけでありますが、総務省では、新しい生活様式にふさわしい行政サービスの提供の在り方に関する調査を開始したというふうなことでありますが、この糸魚川市では、コロナ禍により、市の行政サービスで今のところ実際にどの辺が変わっているのかお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

大きな行政サービス上の変化はないかと思っておりますが、例えば集まらなきゃならない会議をリモートでやったりとか、なるべく接触を避けたような文書でのやり取りとか、その辺りが変わった点かと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから厚生労働省のホームページでは、かなりのスペースでコロナに関して国民への訴えとして分かりやすい表現でお知らせをしておるわけですが、糸魚川市としても毎回、広報でコロナ関係については情報提供なり呼びかけをされておるわけでなんですけども、実際、市民がこの生活の中でどのように対応してるか、その生活実態、これはあれでしょうかね、確認したことございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

コロナの対策につきましては、市ではいろんな方法、ホームページでありますとか安心メール、防災行政無線等を用いまして市民周知を図っておるところでございますけども、今、議員おっしゃったような、例えば市民においてどの程度対策を実際にとられているかという確認は、いろんな情報は入ってまいりますけれども、なかなか確認を取れているところではございません。

ただ、その辺の徹底を図れるように改めていろんな工夫はいたしまして、市民に新しい生活様式の徹底を訴えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

医療関係者は、非常にこのところの事態を大変心配をしておるわけなんです、一方では、若者は意識はしてるけども恐れていないというような反応もあるわけです。この先、徹底するために、今課長さんの答弁では、なかなか実態も含めて市民の生活の中の様子というのは難しいかもしれませんが、やはりこれは具体的に何がしか対応していかないと断言して終わってしまうという心配もあるんですが、少し踏み込んだほうがいいんじゃないかと思うんですが、何かお考えはございませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

今まで情報は、こちらから一方的に出すばかりな部分もありましたけれども、やはり例えば機会を捉えていろんな地区へ出向いての会議のときをお願いをするとか、いろんな事業所や業者を通して徹底を図るようお願いするあたり、もう一歩踏み込んだ形で徹底を図ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、新しい生活様式というふうなことに付随して、役所におけるテレワークですね。自治体では、この役所の仕事というのは、なかなか導入が難しいというふうに思われておるんですけども、当市の場合はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

テレワークにつきましては、今2回目の試行を実際にやっているところでございまして、1回目が夏の7月から8月にかけてやってまいりました。今回、第2回目ということで、業務内容として実際にどんなことがテレワークに向いているとか、職員の出退勤務の体制がどうであるとか、どのようなものがテレワークとして可能であるかという部分を改めて検証させていただいております。

ただ、業務上いろんな個人情報等を扱う部署が多いものですから、そういうところにつきましては、確かにテレワークに不向きな部分もございまして、その辺りにつきましては、テレワークではなく、場所を変えた分散勤務というような形で取り組んでいけるよう今、対応を考えてるところでございまして。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先日、県の振興局の局長さんに、県の動きをお聞きしたんですけども、日を決めて対応してるといようなお話をされておりました。一例ですけども、青森県のむつ市では、何と7割も出勤者を減らして、先進的な民間企業と同等か、それ以上の体制を目を見張るスピードで成し遂げると。これNHKで紹介されておりましたけども、何か情報つかんでおりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

今むつ市の情報はちょっと聞いておりませんが、いろんな自治体においてテレワークには取り組んでおるといふうには聞いてますし、当市におきましても一番大事なのは、やっぱり住民サービスが大事かと思っておりますので、その辺が後退しないような形でテレワークも併せて取り組んでいくのが大事だなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

むつ市の活動、これ実は特別な方法というのはいないんですね。普通に考えて、今までの常識に縛られないという点だけで、テレワークの道が開けていくと。いわゆる固定した観念を持つてると、これはテレワークはなかなか難しいと。その辺そんなに難しく考える必要はないというような紹介の仕方がされております。

糸魚川市でも、既にRPA、この取組をされて、実績、効果を上げてる。実感しているわけですから、スピードを上げて、このデジタル化に取り組んでいただきたいと。そのためには、先般の質問の答えもあったんですけども、外部の専門家による技術者を一定期間採用しても、仕組みをつくるというような必要もあるのではないかなと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

デジタル化の推進につきましては、やはり喫緊の課題だと思っておりますし、今現在、外部アドバイザーということで総務省関連の方は、ご派遣いただいておりますけれども、ただそれだけではなくて、今後、システムの標準化でありますとかRPAやAI等、IoT等も活用しながらデジタル化を進めていく上においては、さらなる外部人材とか研修等を重ねてまいる必要があるというふうに考えておりますので、その辺も合わせまして進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それで、さらに現在動いております各種の電算システム、これにつきましても効率的で費用の削減につながるような見直しも取り組んでいただきたいと思いますと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

システムにつきましても、この先、国が標準化を示すことになっておりますことから、その辺も見据えまして、なるべく効果的な採用をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、菅内閣が発足して、当初から言われておる自助、共助、公助に関してですけど、いろいろあるんですけども、身近なところでは、私は前から何回か市民による市道の清掃等、共助でどうだというふうな、協働でいかがかというふうな提案をさせていただいておるんですけども、この辺の仕掛けをしたらどうかと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

議員のほうからは、何度となくこの件については議会のほうで取り上げていただいております。昨年9月の一般質問でも、同様な質問をいただきまして、市長のほうからは、実践例を参考に全市的に広めるというような答弁もあり、その議会の後には、直接議員のほうと私のほうで議論をさせていただいた状況でございます。

ただ、また今回このようなご指摘をいただくということに関しては、非常に大変申し訳なく、心苦しく思っております。今現在、建設課のほうで少し試行錯誤といえますか取組を進めておりますので、それが何とか形・成果になって見えますように今の仕事のギアを1段上げて取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。

和歌山県の高野山町ですけれども、清潔な公衆トイレとごみが落ちてないまちとして有名なんです、この市民ぐるみの観光客対応などの精神性が評価されて、外国人観光客に大人気だというふうなことです。私も行って来たんですが、すばらしい環境というのは、町民一人一人の手で守られているというふうなことであります。

先ほどから地域資源のところ、市民ぐるみの観光振興を話させていただきましたけれども、市民が自宅の前の道路を毎日清掃するというだけでも、徹底すれば立派な観光振興にもつながるわけがありますし、ぜひ運動を起こしていただければなというふうに思います。この取組というのは、非常に分かりやすいし、成果が上がればもっと大きな協働、あるいは共助という段階に進むということもできると思うので、ぜひ仕掛けていただきたいとします。

それから、最後の項目になりますけれども、長期財政見通しに見る課題ですが、財政の厳しさが投資的経費に大きく影響して、インフラの更新とか維持管理にも支障を来すのではないかとというふうに心配しとるわけですが、この辺についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

長期財政見通しでありますけれども、やはり投資的経費というのは合併からいろんな新市建設計画も含めてやってきたというところがあります。今後につきましては、やっぱり長期財政見通しでは令和8年までの推計になっておりますが、もうちょっと20年先ぐらい、長期的に見た中で、どう変わっていくのか、そこから描いた像を見ながら、投資的なものというのはしっかり決めていかなきゃいけないというふうに思います。これからも持続可能なまちづくりという観点もございまして、投資するべきところは守りながら財源の確保に努める。これが投資と財源確保、一体だと思っておりますので、財政の運営、持続可能な財政が運営できるような取組、進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

これからの各種事業でありますけれども、例えば産業振興などの場合、行政が政策として、これをやはり企画したり事業化しなきゃいかんと思うんですけれども、最初のうちは行政主導で実施してもやむを得ないと思うんですけれども、本来、事業の中身、これは一番恩恵を受けるJAさんとか、商工会議所さん、商工会さん、漁業協同組合などの各組織団体が、主体的に動いて、各事業を展開する必要が、私はあるのではないかなというふうに考えるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員のおっしゃるとおりだと思います。産業政策もやはり地域経済というところで非常に重要な政策でありますので、投資というものは引き続き必要だというふうに思っております。その中で、やはり初期投資ですか、行政がやっぱり音頭を取って軌道に乗せる。自立させる、独立させる。そこまでは絶対に行政が、しっかり音頭を取って進めていくというのが必要だと思います。そこから軌道に乗れば、民間サイドでのサイクルが回っていけば、一番いいんですけども、まずは初期の段階は、行政がしっかり情報を得る。投資をして、民間等に働きをかける。そういった意味での投資というのは必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

私、単に行政の経費節減ということばかりではなくて、今まで以上に成果も期待できるんじゃないかというふうなことで、それから何よりも行政の余力というのを生み出して、インフラ、福祉、さらに教育、防災というふうなことで、よそではできないところに責任を持てる体質にやはりしっかりしておく必要があるというふうに思うんですが、もう一度いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

繰り返しのになってしまいますが、やはり20年先を見たときの姿、そこからそこへ行きつくまでの事象、何が起こるのかと。そういったものをしっかり予測するのが大事だと思います。議員が言われた人への投資というふうに受け止めさせていただきたいと思います。やはり人への投資というのは、人材育成という観点で非常に大事だというふうに思いますので、それと市と、それから市民の皆様が、生活する上でのインフラ、そういったものはしっかり確保するように努めなきゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

最後に、米田市長にお聞きしたいんですけども、これからの不透明で不確実な時代、これを取り切るために非常に大変だと思うんですけども、今後の行政運営の考えと意気込みをお聞きしておきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕



○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

よりコロナ禍の中で、行政の果たす役割の重要性が顕在化したと思っております。そしてそれが、やはりさらにスピードを持ってやらなくてはいけない。そしてさらに新たなこの機会、チャンスと言えればいいのでしょうか、そういったことも少し具体化・具現化されておるところも見えてきたと。今までは見えなかった部分が、よりそれを狭めて、そして集中的にやらなくちゃいけないのではないかなと思っております。それは、各都市の課題であるわけでございまして、人口減少であったり、そしてまた、新型コロナウイルス感染症の発生と拡大によりまして地域医療の重要性、そして人口減少によって、さらに厳しい環境にあったものが、これによってさらにより厳しくなっておるといような、非常に待たなしでやらなくてはいけない問題というのは非常に大きくなつておると思っております。そういった問題をやはり抱えながら、ただ単に目先だけではなくて、将来にもつなげるようなものにしていかなくてはいけないだろうと思っております。ワクチンや薬ができない、この新型コロナウイルス感染症に対しましては、そういったところがまず最重要課題で取り組まなくてはならないだろうと思っております。そのようなことで、非常に新たな一つのターニングポイントになってるのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

これで、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

担当入替えのため、11時25分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時16分 休憩〉

〈午前11時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の質問をさせていただきます。